

TJB 学生編集部特集 : AsOBiNet

AsOBiNet に参加した理由と体験を通して得たもの

五十嵐 史彦 (東京大学大学院 新領域創成科学研究科博士課程 1 年)

私が AsOBiNet に参加しようと思ったのは英会話のスキルアップのためでした。というのも、私は米国に在住していたことがあったにも関わらず、受験勉強などに代表されるような英語を勉強することに対する関心が低く、その貴重な経験を活かせずに悶々としていたためです。英語に対する考え方が変わったのは、大学学類3年生のとき初めて自力で海外旅行に行った後のことでした。行先は太陽の国、タイ。東南アジアに行ったことがなかった私は、タイで起きる全てのことが刺激的でしたが、特に印象に残ったことの一つとして言葉の問題がありました。印象というよりは不安と言った方が適切かもしれません。言葉の問題、つまりは異国の地で右も左も分からず、また現地の人たちが何を話しているのか全く分からず不安な状態になることは、海外に行ったことのある人なら誰もが一度は経験するものだと思います。特に私の場合はタオ島というマイナーなところに行ったせいもあったため旅行の最初の方はかなり不安でした。しかし、そんなときに頼りとなったのが英語でした。例えば、道が分からなくて困ったときに、タイ語しか喋っていないタイの人に“通じるかな…”と思いつつ英語で道を尋ねてみると、あっさりとして正しい目的地を簡単な英語で教えてくれました。なんでタイの人なのに英語が分かるのだろうかなんて思っていました。タイの人たちが英語を小学生のときから習っていることと、タオ島が実は観光地であったことを後々知って、納得しました。そして帰国してから“タイの人たちに負けてられない、英語の勉強だ”と自分の英語に対する姿勢が変わったのを覚えています。英会話スキルを伸ばす絶好の機会だと思って AsOBiNet へ参加申込をしたのは、このタイ旅行から一年後のことでした。

AsOBiNet では様々な体験を楽しみながら英語能力の向上が目に見える形で表れてきました。実際に AsOBiNet に関わっていた1年間で TOEIC の点数は 200 点近く伸びました。当初の目的に沿う形、つまり自分に対する教育という点では AsOBiNet への参加は大成功だったと思います。このように思い返してみると AsOBiNet は目論みどおりの素晴らしいプログラムでした。ただ、こう思えるのも想定以上に楽しかった数多くの活動のおかげです。そして、楽しかった思い出のなかには自分自身への教育以上に意義のあるもの、と感じられるものがありました。成長を望んだとしても手に入らないユニークな体験が AsOBiNet には潜んでいた、ということです。それは、海外の生物系学生らとの交流です。短い交流期間でしたが、彼らとの交流は非常に楽しかった。自分たちの国の習慣から恋愛など多種多様な楽しい話を夜中までしたり、ときにはセミナーやディスカッションで真面目な討論をしたりと、決して自分本意の海外旅行では味わえない濃厚な交わりが AsOBiNet にはありました。深い友情も生まれました。私は今でも彼らのうち気の合った友人とメールをやり取りしています。TOEIC のスコアアップも、この人と人との交流の楽しさに引きずられて起きた現象かもしれません。このように、実は AsOBiNet 最大の楽しみは人的交流で、交流を心底楽しめた人間ほど英語もスキルアップすると私は確信しています。よって、AsOBiNet に関わった学生同士の絆こそが私にとって AsOBiNet を通じて得られた最大の宝物であると、私は思います。

Communicated by Shinobu Satoh, Received October 7, 2008.

Revised version received October 14, 2008.